

第111回「村長とのふれあいトーク」当日のやりとりコメント

【1】 舟石川橋の舗装について

舟石川橋の東側から西側に渡る際に道がデコボコしている為、舗装してほしい。

⇒【村長コメント】

私もデコボコしていることは把握している。トラック等の交通量が多い道路の為、担当課に言っているが、優先順位をつけて舗装工事を行っている為、今すぐには難しい。ご意見として伺う。

【2】 東海村の空き家について

村内で空き家が増えていると感じる。村として、改善を目指す対策が必要ではないか。

⇒【村長コメント】

村としても空き家の管理や活用は喫緊の課題であると認識している。今後もインフラ整備との兼ね合いも考慮しながら、対策について検討していく。

【3】 東海村コミュニティバス（災害時対応バス）導入のご提案とお願いについて

①村民の安全・安心で快適な生活のため。②国内外からの観光客誘客と産業振興のため。③災害時に全村民の避難を可能とするため。以上3つの理由により、コミュニティバスの導入を提案したい。導入する際は、常陸那珂港区方面、日立南部方面、常陸太田市役所方面、常磐自動車道那珂IC方面、JR勝田駅方面、東海村内循環便の6ルートを想定。利用料は1回1人につき、100円（障がい者・高齢者・幼児は半額、災害時は無料）とし、運行本数は、30～60分に1本とする。現在東海村では、デマンドタクシーを運行しているが、利用料が1回1人につき、300円のため、高齢者夫婦が外出すると往復1200円の出費となり、負担が大きいと感じる。ぜひコミュニティバス導入を検討していただきたい。

⇒【村長コメント】

6つの運行ルートを提示いただいたが、コミュニティバスは市町村をまたいで運行することはできない。他の市町村を運行ルートに加えるとすると、路線バスという扱いになってしまう。村でも以前は、福祉バスを運行していたが、乗客が少ないなどといった理由から、デマンドタクシーへと移行になった。まずは、ひたちなか市のコミュニティバス（スマイルバス）を事例に、東海村でコミュニティバスを運行する際には、どのくらいの費用がかかるかを調査する。コミュニティバスの運行費がデマンドタクシーの運行費を大幅に超える場合は、実現が難しくなる。また、デマンドタクシーの料金については、公共交通会議（村内の交通について話し合う場）で議論の上、決定している。その他のデマンドタクシーの課題として、予約の取りづらさが上げられる。現在は、電話予約を受けたオペレーターが配車しているが、さらなる効率化を目指し、AIの導入を視野に入れ、検討している。最近では新たな交通手段として、「ライドシェア」が注目されている。コミュニティバスやデマンドタクシーに限定せず、さまざまな選択肢をもって、今後の交通手段について検討していきたい。